

災害対策推進・教育センター

VOL.45 2026年6月号

かわら版

Topics さつき保育園の津波避難訓練が行われました

5月19日(火)、さつき保育園園児45名・保育士13名の津波避難訓練を実施しました。病院からは応援者として、各担当部署より13名と防災会議・防災WGメンバーが参加しました。保育士と応援者が協力して安全確認を行いながら、園児を抱っこや手つなぎで臨時避難場所である外来棟4階へ避難しました。

避難訓練の様子



参加者、応援者からのコメント



園長先生

皆様にご協力いただき、地震発生から20分で全員が避難を終えることができました。年々訓練の所要時間が短縮されてきているように感じます。いつ地震や災害が起きても対応できるように取り組んでいきたいと思ひます。



保育士

いつ発生するか分からない災害から子どもたちを守っていく事は、安易なことではないですが、訓練をすることで災害の危険性や対策方法を考え、自分が何をすれば良いかが明確になり良かったです。沢山の人が園の事を考えて行動して下さっている事が実感でき心強かったです。



園児

・いろんな人がたすけにきてくれてうれしかった。
・しょうじょうをもらえてうれしかった。
・あつかった。
・4かいまでかいだんをのぼるのがたいへんでつかれた。



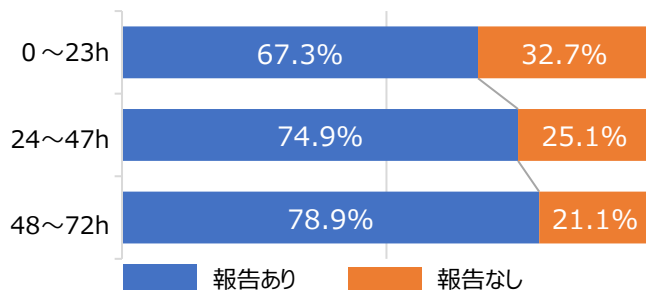
応援者 (看護師)

子どもたちが先生方の話をきちんと聞き、整列しながら落ち着いて行動していた姿が印象に残りました。大人でも混乱してしまう災害時だからこそ、日頃から繰り返し訓練を行うことが、子どもたちの安心につながると感じました。

Topics 全学の安否確認訓練が行われました

4月21日(火)～4月24日(金)に全学の安否確認訓練が実施されました。回答率の時間推移は以下のとおりで、最終の回答率は、78.9%で昨年より4.5%向上となりました。

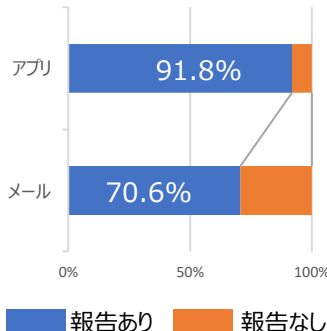
回答率の時間推移



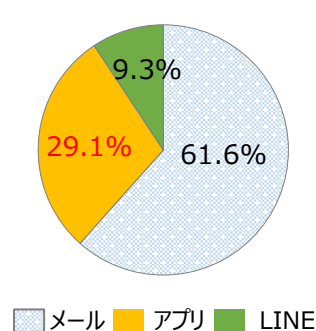
ANPICはアプリの登録がおすすめ

安否確認通知はアプリ登録の場合、プッシュ通知がくるため、下図(左)のように回答率が90%以上となっています。一方で回答者の登録方法内訳は以下の円グラフ(右)のとおり、アプリでの回答は3割程度の状況です。この機会にぜひスマホアプリの登録をして、通知をリアルタイムに受け取れるようにしましょう。

登録方法別回答率



ANPIC登録方法内訳



アプリの登録方法は

「災害対策マニュアル Ver.6.0」の98ページに説明があります。



総務課 総務係長
江川 昂明 です

今回の避難訓練に応援者統括として参加させていただきました。実際に現場で対応してみると、無線機での情報伝達や声掛けの大切さを感じました。皆様のご協力のおかげで、子どもたちも落ち着いて避難することができ、とても心強く感じました。日頃から訓練を重ねておくことの大切さを実感しました。



Face

Topics 津市の南海トラフ被害想定について

3月30日に公表された三重県南海トラフ被害想定より、津市の被害想定を一部ご紹介します。なお、今後は津市より、災害関連死、要配慮者、帰宅困難者、医療対応力不足数など、より詳細な人的被害リスクについても、8月末頃に公表される予定です。

人的被害（津波からの避難が遅い場合）

※想定条件：冬・深夜帯

理論上最大クラス

発生する確率は極めて低いものの
理論上は起こり得る**最大クラス**の地震

	死者数	重傷者数	軽症者数
建物倒壊等	約1100人	約1800人	約5600人
津波	約3800人	約300人	約600人
急傾斜地崩壊等	約20人	約10人	約10人
火災	約50人	約20人	約50人
合計	約5000人	約2100人	約6200人

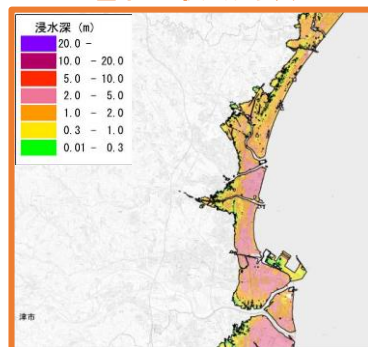
過去最大クラス

記録から実証されている発生頻度の高い
過去最大の地震

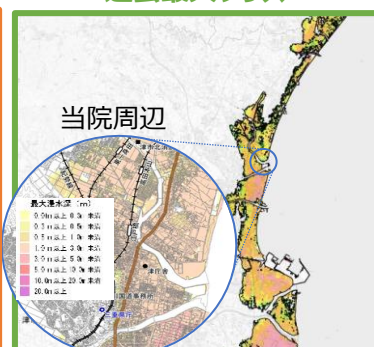
	死者数	重傷者数	軽症者数
建物倒壊等	約80人	約200人	約1700人
津波	約1400人	約30人	約60人
急傾斜地崩壊等	約10人	約10人	約10人
火災	5人未満	5人未満	5人未満
合計	約1500人	約200人	約1700人

津波（浸水する範囲と深さ）

理論上最大クラス



過去最大クラス



理論上最大クラス

過去最大クラス

沿岸最大津波高	5 m	4 m
沿岸津波到達時間	56分	62分

命を守るためには、**津波からの避難**が最重要です。
また、当院は建物の倒壊等による多数の傷病者対応の受け入れが必要となる可能性が高いと想定されます。



知っていましたか？ 新しい気象の警戒基準の紹介

防災気象情報の体系が大きく変更され、5月29日から運用開始されましたのでご紹介します。気象警報が5段階の警戒レベルに統一され、避難行動が直感的に理解しやすくなります。詳細な変更点・変更例などは、気象台HPなどを参照ください。

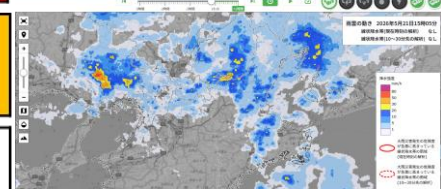
新しい防災気象情報の情報体系とその名称

災害の危険度に応じた避難行動の目安	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
レベル5 特別警報 すでに安全な避難ができず、命が危険な状況 今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する	レベル5 氾濫 特別警報	レベル5 大雨 特別警報	レベル5 土砂災害 特別警報	レベル5 高潮 特別警報
レベル4 危険警報 危険な場所から全員避難する ※台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了	レベル4 氾濫 危険警報	レベル4 大雨 危険警報	レベル4 土砂災害 危険警報	レベル4 高潮 危険警報
レベル3 警報 避難に時間がかかる高齢者等は危険な場所から避難する ・高齢者等以外の人も必要に応じて避難の準備や自主避難	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害 警報	レベル3 高潮警報
レベル2 注意報 ハザードマップ等で災害リスクを再確認する ・自治体から発表される避難情報の把握手段を再確認する	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害 注意報	レベル2 高潮注意報
レベル1 早期注意情報 災害への心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認する	早期注意情報			

重要! その後の予想を
キキクル(危険度分布)で確認しましょう
警戒レベル3に相当する防災気象情報が発表された際には、避難指示等が発令されていなくても、気象庁のキキクル（危険度分布）等を用いて自ら避難の判断をしましょう。



キキクル 検索



キキクル画面イメージ

Center Message

津市の被害想定では、重傷者や軽症者数は津波より建物倒壊等が多いとされています。被害想定は単に不安をあおるための情報ではなく、災害時にどのような患者対応が必要となるのか、また医療機関としてどのように診療を継続していくかを考えるための重要な情報です。ぜひ一度、被害想定の内容を確認してみてください。今回の掲載した被害想定では、「津波からの避難が遅い場合」を想定しており、地震発生後すぐに避難する人の割合は約20%とされています。一方で、この割合が70%まで上昇した場合には、過去最大クラスの地震想定において、死者数が約18,000人減少すると推計されています。

東日本大震災で被災したある小学校では、防災教育を徹底していたことで、状況に応じて4回避難先を変更し、児童約570名全員が無事に避難できた事例があります。その学校では、「想定にとらわれない」「状況下で最善を尽くす」「率先避難者になる」という「避難三原則」が日頃から身につけられていたとされています。被害想定はあくまで計算上の結果であり、実際の災害時には状況が大きく変化する可能性があります。想定だけにとらわれず、津波発生時には「より早く、より高い場所へ避難する」ことを意識し、平時からハザードマップ等を確認して防災意識を高めておきましょう。（センター臨床工学技士 あ）

災害拠点病院として地域で一番の災害対策を目指して